

「聖書の教える因果関係」

ヨハネの福音書9章1～5節

1

またイエスは道の途中で、生まれつきの盲人を見られた。弟子たちは彼についてイエスに質問して言った。「先生。彼が盲目に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。その両親ですか。」イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現れるためです。わたしたちは、わたしを遣わした方のわざを、昼の間に行わなければなりません。だれも働くことのできない夜が来ます。わたしが世にいる間、わたしは世の光です。」ヨハネ9:1-5

2

聖書は因果関係を教えている？

- 聖書を一言でまとめると正しい因果関係の本とも言える？(善と悪の)
- すべてのものの原因、源が創造者である神にある。(それをゆがめるものが罪、悪)
- 「初めに神が」(聖書の最初の言葉)
- その神との関係が(永遠の)いのち ヨハネ17:3
- 聖書は確かに因果と関係の本。
- 人間は神を捨てて、神から離れてしまい、正しい因果を忘れてしまった。関係を失った。

3

この世の教える間違った因果関係

- 生まれつきの盲人に関する質問は当時の間違った常識を表わしている(今日でも)。
- 誰が罪を犯した？この人？両親？どっち？
- 当時の間違った考え方。因果応報の法則(支配的な考え方)
- この間違った考え方がどれだけの人を苦しめてきたか？(2000年前に、ヨブも苦しんだ)
- 弟子たちの質問はその人に聞こえた？
- イエス様の答えも！

4

イエス様のことばは真理 8:31-32

- 「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」ヨハネ8:31-32
- イエス様(のことば)は真理。真理(イエス様)は私たちが自由にする。(この世の間違った、支配的な考え、生き方から自由にする。) コサイ1:13
- 「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」ヨハネ8:12

5

神のわざがこの人に現れるため

- 「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現れるためです。」9:3
- そして、主はこの人をいやされた。地面のちり(土)を使って。アダムを創造された時のようなイメージ。イエス様の救いのわざは新しい創造。
- 「だれでもキリストの内なるなら、その人は新しく造られた者」2コリント5:17、エペソ2:10

6

正しい因果に戻る

- 因果、神が！創世記1:1
- イスラエルの王である主、これを贖う方、万軍の主はこう仰せられる。「わたしは初めてありわたしは終わりである。わたしの他に神はいない。」イザヤ44:6
- 「見よ。わたしは、すべてを新しくする。」、、、
「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。」
黙示21:5-6

7

正しい因果に戻る

- 聖書の教え(福音)が、本当でないなら、どうでもいいことだ。でもそれが本当なら、他のすべてがどうでもいいようになる。(福音が何よりも大事ことになる！)
- この世で一番大事なものは親だ。それは常識だ。でももっと大事なものがある。がつどだ。がつどがすべてをつくられた。親もつくられたがつどほどありがたいものはない。がつどのおしえを守り従うのが人間にとってすべてである。(福沢諭吉-正しい因果を知った！)

8

正しい因果に戻る

- 聖書は求道の書ではない。求人書！人を造り、人に捨てられ、それでも人を求め、人を救うために来てくださり、救いの道、命の道を切り開いてくださった神の愛のドキュメンタリー
- 神がすべてを新しくし、完成させる日が来る。神の壮大なプロジェクト。プロジェクトG(がつど)、プロジェクトAQ(アルファとオメガ)。私たちはみな、そのプロジェクトチームのメンバーとして選ばれている。

9

正しい因果、関係がいのち

- 私たちは、「神の中に生き、動き、存在している。」(使徒17:28)今の人は、自分の力と知恵で生きていると勘違いしている。人間中心、自己中心の時代。自己啓発、自己満足、高ぶりとプライドの時代。(独立自尊？)
- プライドよりも愛が世(人の心)を支配していたら戦争は起こらない。間違った因果関係から生まれるもの、ゆがめられた考え。
- 正しい因果関係から生まれるもの。神への感謝と愛、お互いへの愛。マタイ22:36-40

10

正しい因果、関係がいのち

- 聖書は本当の因果関係の書。
- 最も大切な関係を教える書。
- 最も大切な方から大切なあなたへのメッセージ。「わたしはあなたを創った。わたしはあなたを永遠の愛で愛している。誰が何を言おうと、自分がどう感じようと、そのことを忘れないでほしい！」
- この方を信頼し、この方の弟子として、この方の後に従っていっしょに生きましょう！

11